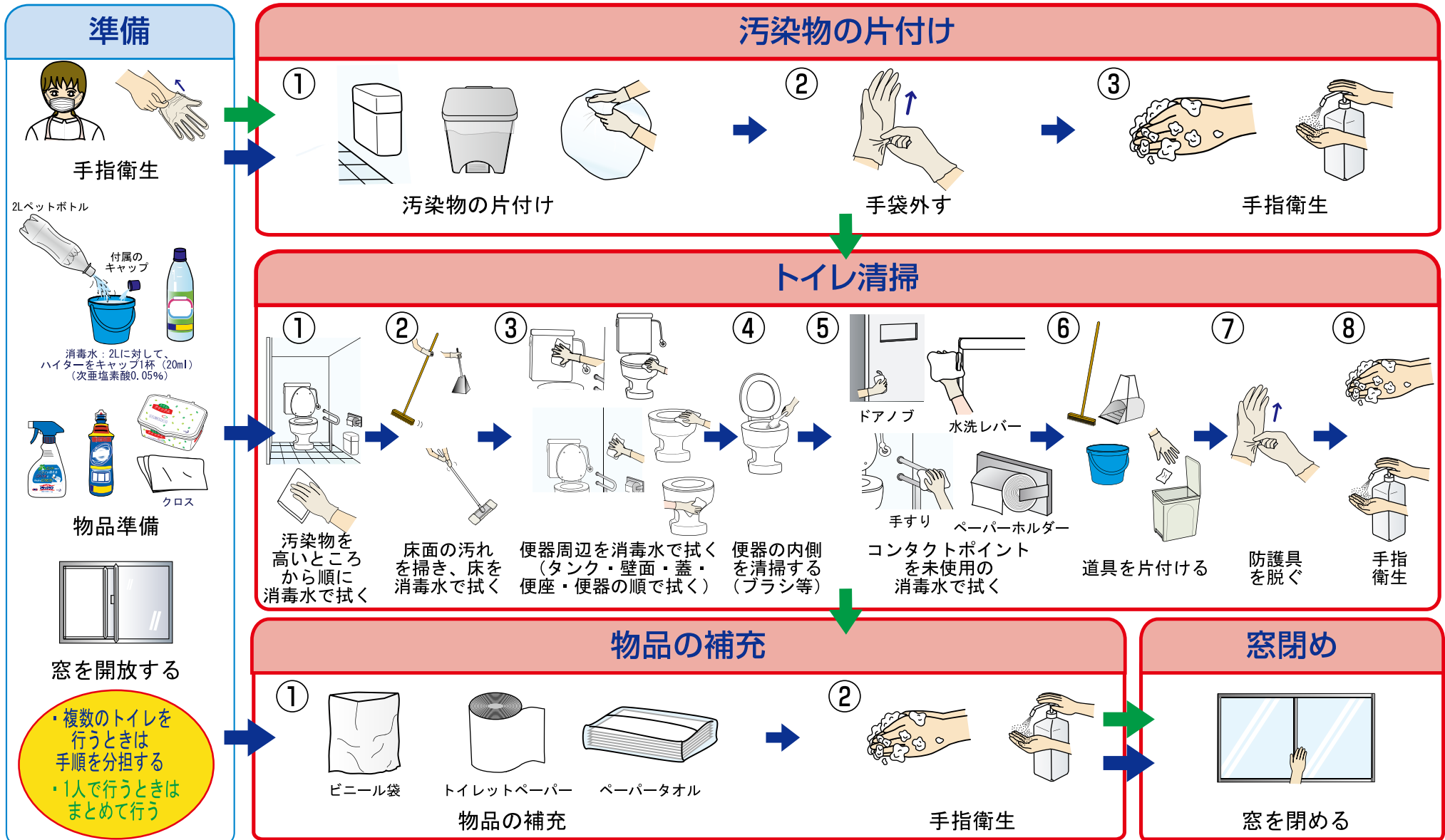


-28-



ベストプラクティス：問題解決のための優れた実践例

❗ 赤字：EBMに基づき強く推奨されているところ

注）本事例集は2011年3月11日発生した東日本大震災で被災された東北地方の方々を中心に2013年に作成されたものです。今回一般社団法人感染管理ベストプラクティス研究会では、迅速性を優先し、内容に大きな変更はしていません。また災害の状況も異なることが予想されるため現状と合わない部分もあるかと思いますが、ご了承ください。
2024年1月11日 一般社団法人 感染管理ベストプラクティス研究会 代表理事 藤田直久

感染管理 チェックリスト

・ノロウイルス ・ロタウイルス
 ・腸内細菌科(大腸菌・赤痢菌・サルモネラ属・肺炎桿菌・プロテウス属・セラチア属・エンテロバクター族等)
 ・バクテロイデス属・ユウバクテリウム属・腸球菌

災害時のトイレ清掃

手順	感染管理のポイント	チェック	理由
準備			
1	防護具の着用	ディスボグローブを着用する。	前作業者の使用方法に統一化が図れないことが予想されるため、なるべく使い捨ての手袋を使用する。ディスボエプロンが準備されている場合は使用する。
2	消毒水の準備	消毒水は濃度を守る。ふき取り用クロスは、不織布等のディスボクロスを準備する。雑巾を使用する場合は、使用箇所を決めて(便器、コンタクトポイントは別にするなど)何枚か準備する。	便器を拭いた雑巾でドアノブなどを拭くと、糞口感染の原因となる場合がある。
3	窓を開放する	閉鎖された空間の空気清浄度を確保する。	ノロウイルスは、汚物や吐物の乾燥した粒子が、空気の流れ等により舞い上がり、その粒子を飲み込むことで、感染が成立することがある。
トイレ清掃			
1	汚染部を高い所から順に消毒水で拭く	汚染部位は、消毒水で汚れがなくなるまで拭く。	便や尿は、感染性のあるものとして取り扱う。
2	床面の汚れを掃き、床を消毒水で拭く	床面は奥の方から手前の方へ、ワンウェイで拭く。	汚染物を拡大しないように、一方向へクロスを動かす。
3	便座周囲を消毒水で拭く	汚染部位は、消毒水で汚れがなくなるまで拭く。	便や尿は、感染性のあるものとして取り扱う。
4	便器の内側を清掃する	汚染部位は、消毒水で汚れがなくなるまで拭く。	便や尿は、感染性のあるものとして取り扱う。
5	コンタクトポイントを未使用の消毒水で拭く	未使用の別のクロスを使用する。	手の触れるコンタクトポイントは、手指を介した感染成立の原因となる。
6	道具を片付ける	雑巾を使用する場合は、洗浄後、消毒水に浸漬し、乾燥させて保管する。	災害時は水の使用が制限されることから、なるべくディスボクロスを使用する。
7	防護具を脱ぐ	手を汚染させないようにディスボグローブを脱ぐ。	汚染した手袋で、環境周囲に触れると、汚染を拡大する。
11	手指衛生	流水と石鹸による手洗いが望ましいが、速乾性手指消毒薬による手洗いでもよい。	水の制限がない場合は、流水と石鹸による手洗いをを行う。
	物品の準備・補充	複数のトイレを清掃する場合は、物品の準備、補充等の清潔作業と汚染除去作業を分担して行う。	清潔と汚染を交差させない。

参考文献
 日本のトイレ研究所Hp

注) 本事例集は2011年3月11日発生した東日本大震災で被災された東北地方の方々を中心に2013年に作成されたものです。今回一般社団法人感染管理ベストプラクティス研究会では、迅速性を優先し、内容に大きな変更はしていません。また災害の状況も異なることが予想されるため現状と合わない部分もあるかと思いますが、ご了承ください。
 2024年1月11日 一般社団法人 感染管理ベストプラクティス研究会 代表理事 藤田直久